

活動名	団体名	特定非営利活動法人夢の広場ようこそ
バリアフリー・プロジェクト ～いつでもだれでも集まれる拠点作り～	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 池岡 洋子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>Oさんの夢、自分の歌の音楽会の実現に向けて</p> <p>Oさんは、小児まひで子どものころから肢体不自由である。特に左足が思うように動かさず、変形も著しい。Oさんが ようこそこの広場に仕事帰りに寄るようになったのは、2013年の秋口からだ。歌が好きで、朝市のステージで歌ってくれるようにもなった。</p> <p>そんな彼の歌心をのせたリサイタルをやろう、彼の願いを実現させよう(メイク・ア・ウィッシュ)。Oさんプロジェクトを立ち上げた。</p> <p>肢体不自由の彼が自由に動き回るには、広場のさらなるバリアフリー化が必要だ、せつかくの機会なのだから知人に頼んでフルバンドの演奏で歌えるように図ってみよう...などなど夢は膨らみ、協力者も増していた。こうして一年をかけて準備をしたOさんプロジェクト、「Oさんライブ」実現の日を迎えることができた。</p> <p>◆実施時期 2月～11月 準備、練習、会場作り(バリアフリー化) 11月23日 朝市の日 ようこそこの広場(JR芸備線井原市駅前)にて</p> <p>◆参加人数 練習、準備、打ち合わせ、会場作り 平均して5名×20回 = 100名 当日 スタッフ30名 朝市参加者 100名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:230名</p>		



11月朝市は快晴。青空の下で盛大に開催できました



ついに来たこの日。JBローズの演奏で堂々と歌いきったOさん



地元神楽団の舞

バリアフリーになったことで、他の活動やステージも幅が広がりました



友情出演広場の歌姫2

アップテンポの曲に合わせて振り付きでのりのり

◆実施に伴う効果

子どもたちは、ますます歌が好きになり、自信をつけ、Oさんは暮れの第九演奏会に参加するなど、活躍の場を広げていった。

スタッフとして参加した統合失調症のAさんは、広場のスタッフとして積極的にかかわろうとしてくれている。

「ようこそ」自体も、次なるステップとして、高齢者支援活動の充実など、具体的に活動を企画しスタッフを募集して、新たな活動の立ち上げを始めることになった。

◆苦労した点

今回のプロジェクトは、なにも苦労とは思わないで行うことができた。過去6年間で培ってきた人間関係や運営の総決算のような気持ちが当日に向けて徐々に高まり、すべてが順調に進んだ。

苦労といえば、逆にそのことで一つの区切りがついてしまい、今後どうしていくのかという新たな課題ができてしまったことだ。

同じことをしていたのでは、今より以上のものにはならない。障害児・者支援、高齢者支援も、ボランティアでの関わりでは限界がある。一步踏み込んで、有料となってもニーズにあった活動を提供するべきではないか。

スタッフ、協力者でそのような議論をしている。

◆今後の課題・発展の方向性

夢の広場ようこそ活動を7年続けてきて、地元での認知度は高まったと思う。多くの方に声をかけてもらえるようになった。

しかし、では地域の実態にあった活動ができているのかと考えるとき、必ずしもそうなっていない。

実態を知るために、機会をとらえてアンケートや聞き取りをしている。

そこから浮かび上がるのは、提供できることと、提供を受けたいと思っておられることとの乖離である。提供したいと思っても法的な規制があったり、社会的な制約があったり、有償でないが無理だったりということがある。

そういうことに目が向くようになったことがステップアップの証であると思いたい。

そこから新たな活動のスタイルを模索している。

新しい人材、新しいスタッフを、今までやってきたことへの手伝いをしてくれる人、今までの活動の充実のために参加をしてくれる人、と限定しないという、コペルニクス的な発想の転換を試みたい。さらに、これまでやってきたことを中断してでも、これまでとは異なる活動に目を向けてみる。

例えば…。

営利を目的にするわけではないが、持ち出しでは続けられない活動がある。

広場に来てもらってする活動だけでなく、出かけて行くことが必要な活動もある。

困っていることはないという回答が、アンケートを集計してみると少なからずある。ではほんとに困っておられないのかと聞き取りをすると、例えば電球を換えられないとか、ちょっとした買い物に困るとか、実は、なくはないのだ。それらは我慢ができるということ。そうしたことの力になれないものか。

幸い、新しい考え方にあった活動のスタイルが見つかりつつある。新しいスタッフも参加してくれることになった。次年度に向けて、大きなターニングポイントに差しかかっている。

◆活動を終えての感想・意見等

おかげさまで、大きなイベントに総力を挙げて取り組むことができました。スタッフも協力者も、それなりに大きな達成感(と、虚脱感?!)を味わうことができました。

これまでの活動に一区切りをつけ、次の活動につなげるための節目の年となったように思います。

新たな取り組みを始めるために、勉強や準備をしています。

今後とも、ご支援がいただければありがたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。